



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 株式会社サザコーヒー：

5

## 差別化と物語にこだわる茨城の名店

全日本コーヒー協会の調査によると、2019年の日本におけるコーヒー消費量は430千トンである（資料1）。この2、3年は減少しているが、長期的には微増傾向を維持している。その一方で、カフェや喫茶店の数は1981年をピークに、2016年は67千店にまで減少した（資料2）。ただし、大手チェーンは国内店舗数を着実に伸ばして、もともと店舗数が多いのがスターバックスの1245店、2位のドトールは1117店、3位のコメダ珈琲店は735店である（資料3）。

10

このような巨大なチェーンの対局として、茨城県ひたちなか市に本店を構える「サザコーヒー」がある。ひたちなか市にはスターバックスコーヒーが2店舗あるが、サザコーヒーは負けていない。JR水戸駅の駅ビルには両方の店があるが、サザコーヒーの売上や集客はときにスタバを凌ぐ。サザコーヒーは1969年に鈴木誉志男氏（現在、代表取締役会長）が創業した。

15

「よい飲食店には、いい食材を使うこと、すぐれた調理技術があり、おいしいこと、お客さんを楽しませるホスピタリティの技術と演出があること。サザはそれを目指してきました」

現在は茨城県内に10店舗、東京都に3店舗、埼玉県に1店舗を運営している。年商は約17億円、従業員は200名という規模である。

20

### サザコーヒーの創業

JR常磐線の勝田駅から徒歩7、8分のところにサザコーヒー本店がある。サザコーヒー本店は、鈴木誉志男氏の父親である鈴木富治氏が経営していた映画館「勝田宝塚劇場」の跡地に建てたものである。鈴木誉志男氏は東洋大学卒業後に（株）東京楽天地に入社して興行プロデューサーの仕事をしていた。

25

本ケースは株式会社サザコーヒーの鈴木誉志男会長へのインタビュー及び鈴木誉志男著『日本人のコーヒー店 — 成功する地縁ビジネス』（柴田書店）をもとに磯辺剛彦教授が作成した。本ケースはクラス討議の基礎資料として用いるもので、経営上の適切もしくは不適な状況を例示しようとするものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright © 磯辺剛彦（2021年5月作成）